

「経済」という意識

— 連想分析の試み —

元 濱 涼 一 郎*

The Latent Meaning of “Economy” : The results of free association method

Ryoichiro MOTOHAMA

要 旨

本稿は連想法を用いて、人々の意識のなかで経済がどのように定義されているかを探ることを目的としている。その結果

1. 連想法により蒐集された語詞は、それなりの構造をもっている。
2. 連想語詞の範囲は、マス・メディアのニュース原稿の使用用語のそれとはほぼ同じであり相互の関連が予想できる。

また、予備的、概括的な数量分析の結果、以下のような傾向が見出された。

1. 連想内容に関しては、通則として「経験的なもの」、即ち「経済」から直接派生した一次的なものとの「分析的なもの」との比がほぼ3 : 1 ~ 4 : 1の範囲にある。
2. 連想内容と性別、学歴、職業の有無についてはそれぞれ関連を指摘できる。

I 問 題

本稿は、「経済」という語を、人々がどのように理解し、また使用しているのかを連想法調査によって抽出する試みである。そこには、一般市民が暗々裏に有している経済観、即ち、彼らの考える「経済とは何か」という問いに対する答えがあり、また、一見したところ断片的で、非体系的な語詞連想、つまり意識にも経済の秩序が反映されているという前提に基づいている。一般的に言って、「そうであること」と「そう思うこと」とは、行動上は同義であり、「経済」そのものに劣らず「経済をどのように理解、或いは意識するか」という問題は重要である。このことは現実経済においてとりわけ該当することは言うまでもないであろう。本稿は、そのための基礎を明らかにするものである。

2 方法論的含意

連想、あるいは観念連合は、西欧哲学史上、またそこから派生した心理学史の上でも長い歴史を辿ることのできる概念である(注1)。その連想法則は、「類似」、「反対(対比)」、「隣接(近接)」に基づくというアリストテレスによる連想法の定式化にはじまる(注2)。そして、とりわけイギリス経験論においては、精神、あるいは知性は、基本的には観念とその連合であると考えられており、また、因果律(原因観念と結果観念の連合)に対する「習慣」や「教育」、そして「個人的、心的傾向」の機能が目録に加えられている。つまり、経験の原理によって、真知・絶対知の認識の権利が留保され、相対化されたことになる(注3)。これをもって、いわば精神と意識に関する経験科学の根拠を据えたといってもよい。思考の心理学が連合主義として出発するのはここからであり、また、その実験研究は即ち、連想研究であった。それは、基本的には、ゴールトンの最初の実験(1879年)以来、呈示語(刺激語)に対する連想観念の性質と数、そして反応時間の測定である。

しかしこの連想は、思考と意識の科学の根拠となっただけではない。連想は、意識の背後にある無意識の発見と、その対象化の道具ともなった。フロイトに始まる精神分析がそれである。精神分析では、診断と治療に「連想法」が用いられ、それによって、無意識の過程は語詞の連想によって解釈され、意識の事実に変換、翻訳されて、患者に提示される。しかし、それだけではない。この連想法は、C. G. ユングによって、裁判での犯人特定的手段にまで、その適用範囲を広げた(注4)。それには、連想の実験的方法の確立が必要であるが、ユングも、刺激語に対する連想の内容と、反応時間(ただし、その乱れ)の測定という同様の方法を使用している(注5)。

このように連想法は、既に十分に確立された分析方法であると言えることができる(注6)。またその応用範囲も広い。それは、意識と無意識の双方にまで跨がり、ただしもっぱら心理学の領域で使用されてきた。例えばそこでは、単一連想と連続連想との比較による連想反応(語)分布に共通の階梯、構造の指摘(注7)、連想と気質、態度、価値など、つまりパーソナリティとの関連(注8)、また言語の差異を超えた連想の一致という命題(注9)等といった心理学上の問題にとどまらず、その上、連想の文化(=経験・行動様式)的特性(注10)、更には、都市化、産業化といった社会学上の問題と連想との関連(注11)までが取り上げられており、もし、そこに着目することができれば、社会学における連想法の使用にも十分な根拠と余地があることになろう。

本稿は、この連想法の一つである自由連続連想法(注12)を使用して「経済」を記述しようとする、おそらくは最初の試みである。

3 資料の性質

[資料]

われわれが蒐集した素材は三つの源泉からなっている。(1)選挙人名簿を使用した郵送による統計調査。90人(2)調査協力者による面接調査。54人(3)大学生による集合調査16人。以上の全てになされた質問文は『「経済」と聞いて、思いつく「ことば」をいくつか順にあげてください。(4~10個)』であり、「経済意識に関するアンケート」(全40問 10頁)の第1問である。

また調査に関しては、今回の調査が、1996年度実施予定の本調査のための予備調査であることから、問題別決に焦点を当てて資料を蒐集することを目的としたために、大都市ではなく、

それぞれ経済的特性をもつと考えられる被験者と地域を、調査実施の便宜等をも考慮して決定した。その結果(1)については沖縄県、那覇市と長崎県、島原市を(2)ではその周辺、(3)は北海道の道都大学学生を被験者としている。沖縄はドル経済を経験した地域であり、島原は雲仙の噴火災害のなお渦中にある。(3)は県庁所在地から遠隔地にある大学の学生のみからなる集団である。

〔調査時期〕

1996年2～3月

4 意識の事実としての経済

〔連想語詞と分類原理〕

連想語詞の一覧は、表1「連想語詞一覧」の通りである。表現形の相違を残して重複分と無回答(DK、NA)を除くと、延べ264語採集できたことになる。我々の課題は、一見したところ無秩序に見える断片が一つの全体の構成要素でありうるための分類原理を見いだすことである。換言すれば、個々の連想を「意識の事実としての経済記述枠」の断片と考え、元々の全体を復元、或いは再構成することである。そこで初めて次にくる連想分析の基本的準備が出来たことになる。

そこで先ず、これらの連想語詞を一瞥すると、大別して三つに分類できることが分かる。すなわち、大分類(I)経験的なもの、つまり「経済」それ自体から直接派生したと考えられるものと(II)分析的なもの、換言すると「経済」にたいする知識や見方等第二次的なもの。そして(III)無回答がそれである。

(I)については、これを抽象的かつ包括的なものから、具体的、個別的なものへ、換言すると「経済」という「場」の性質の相異にしたがって整理すると、中分類①経済そのものの本質・機能に関わる、つまり場が特定できない語詞、②世界という場に関わる語詞、③国家(注13)という場に関わる語詞、④(機能)集団という場に関わる語詞、⑤市民という場に関わる語詞及び国家・世界、国家・機能集団、機能集団・市民といった①～⑤の接点または相互作用という場に関わる語詞を加えての8分類が成立する。(II)は、これを①経済・社会体制に関わる語詞、②経済学・経済用語、③経済という事実それ自体についての評価を表す語詞。以上に分けることができる(以下の小分類、細分類の詳細については、表2「連想語詞分類・集計表」を参照。また細分類には、回答の表現形がほぼそのまま残してある)。

このようないわば、構造分析的アプローチ(注14)を加えれば、一見しただけでは、ただの断片にすぎない連想語詞にも「経済」の秩序が反映されており、そこにも体系的な記述枠組を見出だしうる事が分かる。

〔連想語詞とマス・メディア〕

連想によって得られた語詞は、何等かの源泉をもっていることは言うまでもない。J. ロックのいうように、生得観念などというものはなく、人がもつ観念、したがって語詞はすべて経験によって白紙(タブラ・ラサ)の上に書き込まれたものである。では経済についての、われわれの語詞は何処からくるのか。語詞が教育と学習の産物であることを考慮すると、一般にはメディアがそれであり、さらに性、年齢、学歴、職業、地域を超えて作用するメディア、即ちマス・メディアが最初に考慮されるべきである。また、識字能力と地域的制約から相対的に自由

であるという観点からは、印刷メディアよりも電波メディアがよりアクセスしやすく、その意味でより一般的であると考えてよい。そこで「経済」というテーマにそくしてニュース原稿と照合することにした。わが国で最も広汎な語詞の伝播媒体はNHKであるので、NHKニュース（全国ネットとローカル）のすべての原稿をデータベース「日経テレコム」で検索した。採集された語詞がニュース原稿に見出されるかどうか、またその原稿数を記録した。また期間は、1995年1月1日から1996年9月9日の検索時点まで（調査に先立つほぼ1年前から、ほぼ半年後まで）である。また検索に際しては、連想語を表現形を尊重してそのままキー・ワードとするのを原則としたが、使用範囲が広く「経済」との関連が一義的でないものについては、「経済」をキー・ワードとして追加するなどの操作がしてある。したがって用語「社会」は13760本のニュースで読まれているが、「経済」と関係のあるのは、内728本であるということになる。

結果は、表2に明らかのように、殆どの事例でこの両者は一致しており、例外的な事例は、例えば「金欠」など極度の口語的表現や、「需要曲線」などの高度に専門的な用語、また、あまりに一般的表現、更には「物価の消費」といった混乱した表現などにきざられているといっ（表1参照）。つまり、マス・メディアの使用用語と連想語詞の機能的関係、或いは影響関係はなお間接的かつ暗示的であるが、その分析の前提条件としての並行関係の存在は明らかになったと考えてよい。

表1 連想語詞一覧（五十音順）

		※：ニュースで検索できなかった語詞
あ 赤字国債	開放	※業界新聞
アメリカ	価格	供給
※争い	価格破壊	共産主義
安全に暮らす	各種産業開発	※兄弟仲良く
安定	確定申告	近経
	革命	※金欠
い 衣	学問	銀行
イコール金銭	家計	※近所仲良く
衣料	※家計の収支	金融
インフレ	学校	金融システム
	活動	金利
う ウォン	家庭	
※うるおい	家庭内の経済	く 国が豊になる
ウルグァイラウンド	金	※国を動かす
運営	金のやりくり	くらし
	金まわり	車
え 円	金儲け	軍事
円高	株	
円安	株価	け 経営
	株式	景気
お 大蔵省	株主	景気変動
大蔵官僚	貨幣	経済
お金	為替	※経済会
お金のやりくり	為替レート	経済開発
沖縄県民		経済学科
汚職	き 議員	経済学者
	危機	経済学部
か 改革	企業	経済観念
外交	規制	経済企画庁
会社	給料	※経済指数

経済新聞	※島国根性	た 大国
経済水域	社会	助けあい
経済大国	社会経済	
経済的	社会主義	ち チラシ（安売りチェック）
※経済同好会	社会情勢	貯金
経済不況	※社会体制	貸金
経済摩擦	借金	貸金の安定
経済力	住	
警察	就職	つ 通貨
計算	就職難	罪
※経世済民	住専	て 停滞
下落	住専処理	でたちめ
限界	住専問題	デフレ
献金	収入	デフレ傾向
現代	需要	
建築	※需要曲線	と ドイモイ
県庁	商業	倒産
節約	証券	都市
	上昇	トップ
こ 効果	商店	取引
公課の変動	消費	ドル
公共事業	消費者	
工場	消費者物価	に 日銀
公定歩合	消費税	日本
交流	商品	日本経済
国際	情報操作	日本経済新聞
国際収支	食	※日本の経済
国民総生産	職業	ニュース
国家	食料	人間
国会	所得	
※国民生活基本財	所得格差	ね 年金
※この世	新聞	年金等社会保障に対する不安
雇用	人民元	年度予算
さ 財	す※スーパーMMC	の 農業
財産	ストライキ	※呑み屋はしご
財政		
財政赤字	せ 生活	は 売買
財テク	生活が安定	白書
財閥	生活の安定	破綻
財務	税金	発展
サラ金	生産	バブル
産業	政治	バブル崩壊
	政治家	
し GNP	成長	ひ 病気しない
GDP	政府	貧乏
仕送り	世界	貧富の差
仕事	世界経済	
市場	世界の行方	ふ 封鎖
市場原理	戦争	不況
失業		複雑
失業率3.5%	そ 相互扶助	福祉
資本	造船	不景気
資本主義	相場	物価
資本主義経済		物価が高い

※物価の消費	み ミクロ	り 利益
※物々交換		リストラ
フラン	む※難しい	立法
文化		流通
へ ベア	も 問題	リラ
平和貢献	や 安月給	利率
	※安らぎ	れ 歴史
ほ 貿易	ゆ 有価証券	ろ 労働
貿易自由化	融資	労働市場
貿易摩擦	輸出	ローン
ボーナス	輸出入	
ポンド	豊か	わ 我が家の経済
ま マクロ	豊かさ	その他
マクロ経済	輸入	ない
摩擦	よ 予算	分からない
マネージメント	世の中	
マルク		
マルクス		
マル経		

大分類	中分類	小分類	細分類	実数(%)	ニュース数	大分類	中分類	小分類	細分類	実数(%)	ニュース数
			③ 日本銀行	5 (0.7)	735 (0.8)				(2) 経 営	46 (6.7)	11476 (12.3)
			④ 予 算	2 (0.3)	1899 (2.0)			① 経営、マネージメント	7 (1.0)	3643 (3.9)	
			⑤ 財政(赤字)	6 (0.9)	2485 (2.7)			② 雇 用	4 (0.6)	731 (0.8)	
			⑥ 赤字国債	1 (0.1)	113 (0.1)			③ リストラ	2 (0.3)	184 (0.2)	
			⑦ 税金、消費税、公課の変動	14 (2.0)	875 (0.9)			④ ストライキ	1 (0.1)	203 (0.2)	
			⑧ 金融システム	11 (1.6)	265 (0.3)			⑤ 倒 産	3 (0.4)	390 (0.4)	
			⑨ 確定申告	1 (0.1)	1 (0.0)			⑥ トップ、株主	1 (0.1)	474 (0.5)	
		(3) 福 祉		2 (0.3)	324 (0.3)			⑦ 会社、工場、商店	2 (0.3)	3242 (3.5)	
		① 福 祉		1 (0.1)	79 (0.1)			⑧ 株、相場	24 (3.5)	2536 (2.7)	
		② 年 金		1 (0.1)	245 (0.3)			⑨ 価格破壊	2 (0.3)	73 (0.1)	
		(4) 軍備、治安		2 (0.3)	244 (0.3)			(3) 企業、組織	29 (4.2)	4917 (5.3)	
		① 軍 事		1 (0.1)	140 (0.2)			① 銀行、証券	16 (2.3)	3107 (3.3)	
		② 警 察		1 (0.1)	104 (0.1)			② 企 業	13 (1.9)	1810 (1.9)	
		5 国家・機能集団		23 (3.4)	4844 (5.2)			7 機能集団・市民	22 (3.2)	3719 (4.0)	
		(1) 行政、政策		18 (2.6)	3943 (4.2)			(1) 雇 用	10 (1.5)	737 (0.8)	
		① 規 制		1 (0.1)	759 (0.8)			① 職業、仕事	4 (0.6)	277 (0.3)	
		② 金利、公定歩合		7 (1.0)	1115 (1.2)			② 失 業	2 (0.3)	135 (0.1)	
		③ 失業率		1 (0.1)	5 (0.0)			③ 就職(難)	4 (0.6)	325 (0.3)	
		④ 公共事業(建築)		2 (0.3)	374 (0.4)			(2) 賃 金	8 (1.2)	793 (0.9)	
		⑤ 住 専		7 (1.0)	1690 (1.8)			① 給料、賃金	4 (0.6)	611 (0.7)	
		(2) 組 織		5 (0.7)	901 (1.0)			② (安)月給	1 (0.1)	8 (0.0)	
		① 財 閥		1 (0.1)	76 (0.1)			③ ベ ア	1 (0.1)	28 (0.0)	
		② 経済会(ママ)、経済同好会(ママ)		2 (0.3)	-			④ ボーナス	1 (0.1)	125 (0.1)	
		③ 献 金		1 (0.1)	250 (0.3)			⑤ 賃金安定	1 (0.1)	21 (0.0)	
		④ 汚 職		1 (0.1)	575 (0.6)			(3) 利 率	4 (0.6)	2189 (2.3)	
		6 機能集団		96 (14.0)	19615 (21.0)			① 融 資	2 (0.3)	2023 (2.2)	
		(1) 機 能		21 (3.1)	3222 (3.5)			② ロ ー ン	1 (0.1)	166 (0.2)	
		① 産 業		4 (0.6)	1409 (1.5)			③ スーパーMMC	1 (0.1)	-	
		② 労 働		1 (0.1)	808 (0.8)			8 市 民	78 (11.4)	5093 (5.5)	
		③ 流 通		9 (1.3)	290 (0.3)			(1) 資 産	10 (1.5)	1082 (11.6)	
		④ 商 業		3 (0.4)	335 (0.4)			① 財、財産	5 (0.7)	348 (0.4)	
		⑤ 農 業		1 (0.1)	183 (0.2)			② 借 金	1 (0.1)	511 (0.5)	
		⑥ 造 船		2 (0.3)	26 (0.0)			③ 財テク	1 (0.1)	1 (0.0)	
		⑦ 車		1 (0.1)	171 (0.2)			④ 兄弟仲良く	1 (0.1)	-	

大分類	中分類	小分類	細分類	実数(%)	ニュース数	大分類	中分類	小分類	細分類	実数(%)	ニュース数		
I	(2)	家計	⑤ 貯金	2 (0.3)	222 (0.2)	(3)	経済学用語(理論)		経済学用語(理論)	81 (11.8)	9835 (10.5)		
			① 家計、金のやりくり、金まわり、我が家の経済、家内経済	14 (2.0)	278 (0.3)				① 経済成長 限界、発展	6 (0.9)	439 (0.5)		
			② 所得、収入	5 (0.7)	798 (0.9)				② 市場(原理)、需要(供給)、需要曲線(停滞)	15 (2.2)	4895 (5.2)		
			③ 貧乏	1 (0.1)	1 (0.0)				③ 景気変動、景気(不景気)経済不況	36 (5.2)	2261 (2.4)		
			④ 節約	2 (0.3)	4 (0.0)				④ デフレ、インフレ	11 (1.6)	143 (0.2)		
			⑤ 呑屋はしご、金欠	2 (0.3)	-				⑤ マクロ、ミクロ経済	3 (0.4)	13 (0.0)		
			⑥ チラシ(安売チェック)	1 (0.1)	1 (0.0)				⑥ 労働市場	1 (0.1)	17 (0.0)		
			⑦ 物価(高)	13 (1.9)	243 (0.3)				⑦ 貨幣、価格	5 (0.7)	1875 (2.0)		
			⑧ 仕送り	1 (0.1)	2 (0.0)				⑧ 資本	4 (0.6)	192 (0.2)		
			(3)	生活					生活(安定)暮らし	28 (4.1)	2684 (2.9)	(4)	経済用語(実態)
	① 衣食住	3 (0.4)				912 (1.0)	② GNP、GDP 国民総生産	6 (0.9)	117 (0.1)				
	③ 年金等社会保障の不安	1 (0.1)				6 (0.0)	③ 国民生活基本財 エンゲル係数	3 (0.4)	-				
	④ 病気(しない)	1 (0.1)				27 (0.0)	④ 有価証券	1 (0.1)	168 (0.2)				
	⑤ 近所仲良く助け合い	1 (0.1)				1 (0.0)	⑤ バブル(崩壊)、 破綻	9 (1.3)	1031 (1.1)				
	⑥ 所得格差	1 (0.1)				9 (0.0)	⑥ 経済指数	1 (0.1)	-				
	⑦ 家庭	3 (0.4)				1359 (1.5)	⑦ 消費者物価	1 (0.1)	58 (0.1)				
	① 経済観念	1 (0.1)				1 (0.0)	(5)	ジャーナリズム、メディア、用語	12 (1.7)	797 (0.9)			
	② 新聞、日本経済新聞、 業界新聞、ニュース	9 (1.3)				99 (0.1)							
	③ 白書	1 (0.1)				35 (0.0)							
	④ 情報操作	1 (0.1)	2 (0.0)										
II 経済に対する知識、見方	1 経済・社会体制	(1) 経済・社会体制	① 社会体制	1 (0.1)	-	3 経済の評価	(1) 評価	① でたらめ	6 (0.9)	48 (0.1)			
			② 資本主義(経済)	4 (0.6)	17 (0.0)				② 複雑、むずかしい	2 (0.3)	1 (0.0)		
			③ 社会主義 共産主義	2 (0.3)	74 (0.1)					4 (0.6)	47 (0.1)		
			④ 物々交換	1 (0.1)	-				III 無回答	1 無回答	(1) 無回答	21 (3.1)	-
			① 学校	1 (0.1)	52 (0.1)							② D K	20 (2.9)
	② 経済学部、学科	2 (0.3)	35 (0.0)	19 (2.8)	-								
	(2) 学問	① 学問、経世済民	11 (1.6)	54 (0.1)	① ない	1 (0.1)	-						
			5 (0.7)	30 (0.0)		総計	1 (0.1)	-					
			1 (0.1)	1 (0.0)			686 (100.0)	93294 (100.0)					
			2 (0.3)	1 (0.0)									
2 (0.3)			4 (0.0)										
1 (0.1)	18 (0.0)												

5 連想—集計と分析—

本稿では、予備調査の制約上、連想の数量的分析が一義的目的ではないが、来るべき数量分析に備えてその基礎となりうる知見を求めて概括的な集計を行なった。

〔集計についての留保〕

今回の集計に際して留意しなければならないのは、調査方法の相異なるデータをどう扱うかということ。そして、地域比較に関しては被験者数の偏り、したがって統計上の代表性をどう保証すべきかという問題である。そこで本稿では、(I) ①調査方法別に集計する。②面接調査については、島原周辺(6人)、那覇周辺(48人)と被験者数において大きな開きがあるので、地域間の比較が困難であること。③郵便調査については、島原、那覇(共に45人)で同数であるが、両市で人口規模が異なるため、予備調査であり、ある程度の規模のサンプルを得る必要があるという事情から、抽出率が違うこと(那覇 千分の一で217人、島原 二百分の一で156人)。したがって回収率も異なるので(那覇 20.7%、島原 28.8%)、そのまま比較できないという事。同時に、大分類でのI、II比が両市において、殆ど同じであるという事実(表3「地域別連想語詞集計表」)を確認したので、今回は地域を分析の単位とはしないこととした。(II) 連想内容、つまり「経済」についての情報や知識の受容、分布を規定する諸条件を①性別、②学歴、③職業の有無、④収入(世帯年収)と仮定してこれを集計、分析の単位とすることにした。(III) 今回調査で得られた連想の総数は、160人中、無回答18人を除いて142人で686、1人あたりの平均は4.7である。これは、われわれが求めた下限の数4にほぼ近い値である。そこで(I)(II)について、それぞれ第1連想、第1～4連想の計、第1～10連想の計の3層について比較、検討することとした。また標本数を考慮して中分類段階までの分析に止めてある。更に、原則として無回答は欠損値とし、それを除いて集計してある。

表3. 地域別連想語詞集計表(大分類)

連想 順位	地 域	連 想	
		I	II
第 一 連 想	島 原	24(70.6%)	10(29.4%)
	那 覇	31(81.6%)	7(18.4%)
第 一 ～ 四 連 想	島 原	99(81.1%)	23(18.9%)
	那 覇	113(79.6%)	29(20.4%)
第 一 ～ 十 連 想	島 原	129(82.2%)	28(17.8%)
	那 覇	159(80.3%)	39(19.7%)

〔連想内容〕

(1) 性別

連想内容を性別に比較してみると、(1)大分類IとIIの比は調査方法別にみても、また第1連想、第1～4連想、第1～10連想についても大きな差は見られない。被験者の小さい集合調査を例外として、ほぼ3:1～4:1の範囲にあって、男女差が5%を超えることはない(表4「調査方法別・属性別・連想語詞集計表」)。

(2)中分類のそれぞれについて、連想総数(第1～10計)に対する比(表5「連想語詞集計表—中分類」)を超えるのは以下の通りである(実数2以下を除く)。その結果、分布傾向に相違が見られるので、性別と連想内容との関連が指摘できる(表6「調査方法別・属性別・連想

語詞集計表一中分類」)。

表5. 連想語詞集計表(中分類)

分 類	実 数(%)
11. 経済そのものの本質、機能	100(15.0)
12. 世 界	36(5.4)
13. 国 家 ・ 世 界	78(11.7)
14. 国 家	89(13.4)
15. 国 家 ・ 機 能 集 団	23(3.5)
16. 機 能 集 団	96(14.4)
17. 機 能 集 団 ・ 市 民	22(3.3)
18. 市 民	78(11.7)
21. 経 済 ・ 社 会 体 制	8(1.2)
22. 経 済 学 ・ 経 済 用 語	129(19.4)
23. 経 済 の 評 価	6(0.9)
計	665(100.0)

郵便調査

第1連想では、男性の11,14,18。
女性の11,12,22。
第1～4連想では、男性の11,13,
14,22。女性の12,15,17,18。
第1～10連想では、男性の11,14,
15。女性の12,15,16,17,18。

面接調査

第1連想では、男性の11,18,22。
女性の11,14,18。
第1～4連想では、男性の11,16,
21,22。女性の12,13,14,18。
第1～10連想では、男性の11,13,
16,17,21,22。女性の12,13,14,18。

集合調査

第1連想では、男性の14。女性の13。
第1～4連想では、男性の14,16,22。女性の11,13,14。
第1～10連想では、男性の12,13,14,16,22。女性の11,13,14。

(2) 学 歴

連想内容を学歴別に比較してみると、(1)大分類IとIIの比は調査方法別にみても、また第1連想、第1～4連想、第1～10連想についても大きな差は見られない。人数の少ない基礎教育と大学生のみの集合調査を除外すると、ほぼ3:1～4:1強の範囲にあって、学歴差が5%を超えるのは、6例中2例である(表4参照)。

(2)中分類のそれぞれについて、連想総数(第1～10計)に対する比(表5)を超えるのは以下の通りである(実数2以下を除く)。その結果、大学生のみの集合調査を除いて、分布傾向に相違が見られるので、学歴と連想内容との関連が指摘できる(表6)。

郵便調査

第1連想では、中等教育の11,12,14。高等教育の11,13,14。
第1～4連想では、中等教育の12,15,17,18。高等教育の11,14,18,22。
第1～10連想では、中等教育の12,15,16,17,18。高等教育の11,14,15,16,18,22。

面接調査

第1連想では、中等教育の18。高等教育の11,14。
第1～4連想では、中等教育の12,13,18。高等教育の11,16,21,22。
第1～10連想では、中等教育の12,13,18。高等教育の11,13,16,21,22。

集合調査

第1連想では、高等教育の11,13,14。

第1～4連想では、高等教育の12,13,14,22。

第1～10連想では、高等教育の12,13,14,22。

(3) 職業

連想内容を職の有無別に比較してみると、有職は調査方法の如何を問わず、また第1連想、第1～4連想、第1～10連想のいずれについても、(1)大分類IとIIの比はほぼ4:1である。学生は有職に比べると、人数の少ない面接調査の第1連想を除いて、ほぼ10%低い。無職は人数の少ない面接調査の第1連想を除いて、ほぼ3:1の比である。従って、IとIIの比はほぼ有職、無職、学生の順に高いという関連が見られる。

(2)中分類のそれぞれについて、連想総数(第1～10計)に対する比(表5)を超えるのは以下の通りである(実数2以下を除く)。なお集合調査については被験者の性格上、学歴と同じであるので省略する。その結果、集合調査を除いて、分布傾向に相違が見られるので、職業と連想内容との関連が指摘できる。

郵便調査

第1連想では、有職の11,12,14,15,18。無職の11,16。

第1～4連想では、有職の11,12,14,15,17,18。学生の22。無職の11,12,18,22。

第1～10連想では、有職の11,12,13,14,15,16,17,18。学生の14,15,22。無職の12,18,22。

面接調査

第1連想では、有職の11,13,18。学生の11,14。

第1～4連想では、有職の12,13,16,17,18。学生の11,14,21,22。

第1～10連想では、有職の12,13,16,17,18。学生の11,14,21,22。無職の14。

(4) 世帯年収

連想内容を世帯年収別に比較してみると、大分類IとIIの比は調査方法別にみても、また第1連想、第1～4連想、第1～10連想についても変異が大きく年収の連想に与える効果の一般的傾向を見出すことはこの規模の標本段階では困難である(表4、5、6参照)。

[結果]

以上で見ると、大分類で見ると、いずれで見ても通則として「(I)経験的な連想」が「分析的な連想(II)」の3～4倍に達する。また、職業の有無については、この段階でも既に連想内容との関連が指摘できる。これをより詳細に(中分類)検討すると①職業の有無以外にも性別、学歴、については、連想内容との関連を部分的に指摘できる。ただし②世帯年収との関係については、手がかりが得られない。

表4. 調査方法別、属性別連想集計表(大分類)

連想 属性		第1連想									第1~第4連想									第1~第10連想								
		集合		面接		郵便		計		総計	集合		面接		郵便		計		総計	集合		面接		郵便		計		総計
		I	II	I	II	I	II	I	II	I+II	I	II	I	II	I	II	I	II	I+II	I	II	I	II	I	II	I	II	I+II
性別	男性	8 (88.9)	1 (11.1)	26 (78.8)	7 (21.2)	22 (78.6)	6 (21.4)	56 (80.0)	14 (20.0)	70 (100.0)	26 (72.2)	10 (27.8)	94 (74.0)	33 (26.0)	86 (79.6)	22 (20.4)	206 (76.0)	65 (24.0)	271 (100.0)	38 (67.9)	18 (32.1)	111 (74.5)	38 (25.5)	116 (80.0)	29 (20.0)	265 (75.7)	85 (24.3)	350 (100.0)
	女性	6 (85.7)	1 (14.3)	15 (83.3)	3 (16.7)	32 (76.2)	10 (23.8)	53 (79.1)	14 (20.9)	67 (100.0)	24 (85.7)	4 (14.3)	49 (79.0)	13 (21.0)	123 (81.5)	28 (18.5)	196 (81.3)	45 (18.7)	241 (100.0)	29 (87.9)	4 (12.1)	56 (78.9)	15 (21.1)	165 (82.5)	35 (17.5)	250 (82.2)	54 (17.8)	304 (100.0)
	不明	-	-	-	-	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	1 (50.0)	2 (100.0)	-	-	-	-	5 (62.5)	3 (37.5)	5 (62.5)	3 (37.5)	8 (100.0)	-	-	-	-	7 (63.6)	4 (36.4)	7 (63.6)	4 (36.4)	11 (100.0)
学歴	基礎教育	-	-	1 (100.0)	-	4 (50.0)	4 (50.0)	5 (55.6)	4 (44.4)	9 (100.0)	-	-	4 (100.0)	-	21 (75.0)	7 (25.0)	25 (78.1)	7 (21.9)	32 (100.0)	-	-	4 (100.0)	-	28 (71.8)	11 (28.2)	32 (74.4)	11 (25.6)	43 (100.0)
	中等教育	-	-	10 (76.9)	3 (23.1)	28 (77.8)	8 (22.2)	38 (77.6)	11 (22.4)	49 (100.0)	-	-	34 (77.3)	10 (22.7)	109 (83.8)	21 (16.2)	143 (82.2)	31 (17.8)	174 (100.0)	-	-	36 (76.6)	11 (23.4)	145 (84.8)	26 (15.2)	181 (83.0)	37 (17.0)	218 (100.0)
	高等教育	14 (87.5)	2 (12.5)	28 (80.0)	7 (20.0)	19 (82.6)	4 (17.4)	61 (82.4)	13 (17.6)	74 (100.0)	50 (78.1)	14 (21.9)	99 (74.4)	34 (25.6)	69 (75.8)	22 (24.2)	218 (75.7)	70 (24.3)	288 (100.0)	67 (75.3)	22 (24.7)	120 (75.5)	39 (24.5)	97 (78.2)	27 (21.8)	284 (76.3)	88 (23.7)	372 (100.0)
	不明	-	-	2 (100.0)	-	4 (80.0)	1 (20.0)	6 (85.7)	1 (14.3)	7 (100.0)	-	-	6 (75.0)	2 (25.0)	15 (83.3)	3 (16.7)	21 (80.8)	5 (19.2)	26 (100.0)	-	-	7 (70.0)	3 (30.0)	18 (81.8)	4 (18.2)	25 (78.1)	7 (21.9)	32 (100.0)
世帯年収(万円)	-200	1 (100.0)	-	4 (57.1)	3 (42.9)	4 (66.7)	2 (33.3)	9 (64.3)	5 (35.7)	14 (100.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	17 (65.4)	9 (34.6)	17 (85.0)	3 (15.0)	37 (74.0)	13 (26.0)	50 (100.0)	6 (66.7)	3 (33.3)	17 (60.7)	11 (39.3)	18 (85.7)	3 (14.3)	41 (70.7)	17 (29.3)	58 (100.0)
	200-350	2 (100.0)	-	6 (85.7)	1 (14.3)	7 (100.0)	-	15 (93.8)	1 (6.2)	16 (100.0)	7 (87.5)	1 (12.5)	21 (75.0)	7 (25.0)	26 (100.0)	-	54 (87.1)	8 (12.9)	62 (100.0)	8 (88.9)	1 (11.1)	25 (75.8)	8 (24.2)	30 (100.0)	-	63 (87.5)	9 (12.5)	72 (100.0)
	400-550	2 (100.0)	-	12 (92.3)	1 (7.7)	10 (66.7)	5 (33.3)	24 (80.0)	6 (20.0)	30 (100.0)	4 (50.0)	4 (50.0)	35 (76.1)	11 (23.9)	41 (73.2)	15 (26.8)	80 (72.7)	30 (27.3)	110 (100.0)	7 (53.8)	6 (46.2)	43 (76.8)	13 (23.2)	61 (74.4)	21 (25.6)	111 (73.5)	40 (26.5)	151 (100.0)
	600-750	4 (100.0)	-	6 (60.0)	4 (40.0)	10 (90.9)	1 (9.1)	20 (80.0)	5 (20.0)	25 (100.0)	15 (93.8)	1 (6.2)	29 (78.4)	8 (21.6)	33 (82.5)	7 (17.5)	77 (82.8)	16 (17.2)	93 (100.0)	17 (77.3)	5 (22.7)	33 (80.5)	8 (19.5)	42 (85.7)	7 (14.3)	92 (82.1)	20 (17.9)	112 (100.0)
	800-950	-	1 (100.0)	3 (100.0)	-	3 (50.0)	3 (50.0)	6 (60.0)	4 (40.0)	10 (100.0)	3 (75.0)	1 (25.0)	10 (100.0)	-	18 (78.3)	5 (21.7)	31 (83.8)	6 (16.2)	37 (100.0)	4 (80.0)	1 (20.0)	11 (100.0)	-	21 (75.0)	7 (25.0)	36 (81.8)	8 (81.2)	44 (100.0)
	1000+	3 (100.0)	-	7 (87.5)	1 (12.5)	13 (76.5)	4 (23.5)	23 (82.1)	5 (17.9)	28 (100.0)	10 (83.3)	2 (16.7)	20 (66.7)	10 (33.3)	49 (76.6)	15 (23.4)	79 (74.5)	27 (25.5)	106 (100.0)	13 (86.7)	2 (13.3)	27 (71.1)	11 (28.9)	73 (77.7)	21 (22.3)	113 (76.9)	34 (23.1)	147 (100.0)
	不明	2 (66.7)	1 (33.3)	3 (100.0)	-	8 (80.0)	2 (20.0)	13 (81.3)	3 (18.7)	16 (100.0)	8 (66.7)	4 (33.3)	11 (91.7)	1 (8.3)	30 (78.9)	8 (21.1)	49 (79.0)	13 (21.0)	62 (100.0)	12 (75.0)	4 (25.0)	11 (84.6)	2 (15.4)	43 (82.7)	9 (17.3)	66 (81.5)	15 (18.5)	81 (100.0)
職業	有職	-	-	25 (78.1)	7 (21.9)	39 (76.5)	12 (23.5)	64 (77.1)	19 (22.9)	83 (100.0)	-	-	92 (79.3)	24 (20.7)	157 (83.5)	31 (16.5)	249 (81.9)	55 (18.1)	304 (100.0)	-	-	103 (79.8)	26 (20.2)	206 (83.7)	40 (16.3)	309 (82.4)	66 (17.6)	375 (100.0)
	学生	14 (87.5)	2 (12.5)	15 (88.2)	2 (11.8)	1 (50.0)	1 (50.0)	30 (85.7)	5 (14.3)	35 (100.0)	50 (78.1)	14 (21.9)	45 (69.2)	20 (30.8)	5 (62.5)	3 (37.5)	100 (73.0)	37 (27.0)	137 (100.0)	67 (76.1)	21 (23.9)	53 (67.9)	25 (32.1)	10 (76.9)	3 (23.1)	130 (72.6)	49 (27.4)	179 (100.0)
	無職	-	-	1 (50.0)	1 (50.0)	12 (80.0)	3 (20.0)	13 (76.5)	4 (23.5)	17 (100.0)	-	-	6 (75.0)	2 (25.0)	42 (75.0)	14 (25.0)	48 (75.0)	16 (25.0)	64 (100.0)	-	-	7 (77.8)	2 (22.2)	55 (74.3)	19 (25.7)	62 (74.7)	21 (25.3)	83 (100.0)
	その他	-	-	-	-	1 (100.0)	-	1 (100.0)	-	1 (100.0)	-	-	-	-	2 (50.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	4 (100.0)	-	-	-	-	2 (50.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	2 (50.0)	4 (100.0)
	不明	-	-	-	-	2 (66.7)	1 (33.3)	2 (66.7)	1 (33.3)	3 (100.0)	-	-	-	-	8 (72.7)	3 (27.3)	8 (72.7)	3 (27.3)	11 (100.0)	-	-	-	-	10 (71.4)	4 (28.6)	10 (71.4)	4 (28.6)	14 (100.0)

(学歴) 基礎教育とは、旧制尋常小学校、旧制高等小学校、新制中学校
 中等教育とは、旧制中学校、女学校、実業学校、新制高等学校
 高等教育とは、旧制高等学校、旧制大学、大学院、新制短期大学、高専、新制大学、大学院
 (職業) 有職には、パート、アルバイトを含む。

表6 調査方法別、属性別連想集計表(中分類)

(調査方法毎に上段は実数、下段は百分比)

属性	連想	郵便調査											面接調査											集合調査											
		11	12	13	14	15	16	17	18	21	22	23	11	12	13	14	15	16	17	18	21	22	23	11	12	13	14	15	16	17	18	21	22	23	
		11	12	13	14	15	16	17	18	21	22	23	11	12	13	14	15	16	17	18	21	22	23	11	12	13	14	15	16	17	18	21	22	23	
性別	男	第1	5 (17.9)	1 (3.6)	2 (7.1)	8 (28.6)	1 (3.6)	-	1 (3.6)	4 (14.3)	-	5 (17.9)	1 (3.6)	10 (30.3)	1 (3.0)	3 (9.1)	4 (12.1)	-	4 (12.1)	-	4 (12.1)	-	7 (21.2)	-	2 (22.2)	1 (11.1)	1 (11.1)	3 (33.3)	-	-	-	1 (11.1)	-	1 (11.1)	-
		第1~4	22 (20.4)	5 (4.6)	13 (12.0)	19 (17.6)	3 (2.8)	10 (9.3)	3 (2.8)	11 (10.2)	-	21 (19.4)	1 (0.9)	26 (20.5)	6 (4.7)	11 (8.7)	14 (11.0)	2 (1.6)	22 (17.3)	3 (2.4)	10 (7.9)	4 (3.1)	28 (22.0)	1 (0.8)	4 (11.1)	2 (5.6)	4 (11.1)	6 (16.7)	-	7 (19.4)	1 (2.8)	2 (5.6)	10 (27.8)	-	
		第1~10	25 (17.2)	5 (3.4)	17 (11.7)	23 (15.9)	7 (4.8)	18 (12.4)	4 (2.8)	17 (11.7)	-	28 (19.3)	1 (0.7)	26 (17.4)	7 (4.7)	19 (12.8)	15 (10.1)	2 (1.3)	25 (16.8)	5 (3.4)	12 (8.1)	4 (2.7)	33 (22.1)	1 (0.7)	5 (8.9)	4 (7.1)	7 (12.5)	9 (16.1)	-	9 (16.1)	1 (1.8)	3 (5.4)	18 (32.1)	-	
	女	第1	11 (26.2)	3 (7.1)	2 (4.8)	5 (11.9)	2 (4.8)	5 (11.9)	-	4 (9.5)	-	9 (21.4)	1 (2.4)	4 (22.2)	1 (5.6)	2 (11.1)	3 (16.7)	-	1 (5.6)	-	4 (22.2)	1 (5.6)	1 (5.6)	1 (14.3)	-	3 (42.9)	2 (28.6)	-	-	-	-	-	1 (14.3)	-	
		第1~4	22 (14.6)	12 (7.9)	11 (7.3)	17 (11.3)	7 (4.6)	19 (12.6)	9 (6.0)	26 (17.2)	2 (1.3)	35 (15.9)	1 (1.3)	14 (14.5)	6 (6.5)	14 (14.5)	16 (16.1)	1 (1.6)	11 (11.3)	1 (1.6)	7 (12.9)	3 (3.2)	14 (14.5)	3 (3.2)	17 (17.9)	7 (7.1)	25 (25.0)	17 (17.9)	-	2 (7.1)	1 (3.6)	2 (7.1)	4 (14.3)	-	
		第1~10	28 (14.0)	14 (7.0)	18 (9.0)	22 (11.0)	10 (5.0)	32 (16.0)	10 (5.0)	31 (15.5)	2 (1.0)	31 (15.5)	2 (1.0)	10 (14.1)	4 (5.6)	9 (12.7)	13 (18.3)	1 (1.4)	9 (12.7)	1 (1.4)	9 (12.7)	2 (2.8)	11 (15.5)	2 (2.8)	6 (18.2)	2 (6.1)	7 (21.2)	6 (18.2)	1 (3.0)	3 (9.1)	1 (3.0)	3 (9.1)	4 (12.1)	-	
	不明	第1	-	-	-	-	-	-	-	1 (50.0)	-	1 (50.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第1~4	-	-	1 (12.5)	1 (12.5)	1 (12.5)	-	-	2 (25.0)	-	3 (37.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第1~10	-	-	1 (9.1)	1 (9.1)	2 (18.2)	-	-	3 (27.3)	-	4 (36.4)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
学歴	基礎教育	第1	2 (25.0)	-	-	1 (12.5)	-	1 (12.5)	-	-	-	3 (37.5)	1 (12.5)	1 (100.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		第1~4	5 (17.9)	1 (3.6)	3 (10.7)	3 (10.7)	1 (3.6)	2 (7.1)	3 (10.7)	-	6 (21.4)	1 (3.6)	2 (50.0)	-	-	1 (25.0)	-	1 (25.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
		第1~10	7 (17.9)	1 (2.6)	4 (10.3)	3 (7.7)	2 (5.1)	5 (12.8)	3 (7.7)	3 (7.7)	-	10 (25.6)	2 (2.6)	2 (50.0)	-	-	1 (25.0)	-	1 (25.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中等教育	第1	7 (19.4)	3 (8.3)	1 (2.8)	7 (19.4)	2 (5.6)	3 (8.3)	1 (2.8)	4 (11.1)	-	4 (17.4)	-	2 (15.4)	1 (7.7)	1 (7.7)	-	-	1 (7.7)	-	-	5 (38.5)	-	2 (15.4)	1 (7.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		第1~4	17 (13.1)	14 (10.8)	10 (7.7)	17 (13.1)	7 (5.4)	17 (13.1)	7 (5.4)	20 (15.4)	-	19 (14.6)	2 (1.5)	5 (11.4)	3 (6.8)	7 (15.9)	3 (6.8)	-	6 (13.6)	2 (4.5)	8 (18.2)	1 (2.3)	7 (15.9)	2 (4.5)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		第1~10	23 (13.5)	16 (9.4)	15 (8.8)	21 (12.3)	9 (5.3)	25 (14.6)	8 (4.7)	28 (16.4)	-	24 (14.0)	2 (1.2)	5 (10.6)	3 (6.4)	7 (14.9)	4 (8.5)	-	6 (12.8)	2 (4.3)	9 (19.1)	1 (2.1)	8 (17.0)	2 (4.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	高等教育	第1	6 (26.1)	1 (4.3)	3 (13.0)	5 (21.7)	1 (4.3)	1 (4.3)	-	2 (8.7)	-	4 (17.4)	-	10 (28.6)	1 (2.9)	3 (8.6)	7 (20.0)	-	4 (11.4)	-	3 (8.6)	1 (2.9)	6 (17.1)	-	3 (18.8)	1 (6.2)	4 (25.0)	5 (31.2)	-	-	-	1 (6.2)	-	2 (12.5)	
		第1~4	20 (22.0)	2 (2.2)	8 (8.8)	14 (15.4)	2 (2.2)	9 (9.9)	2 (2.2)	12 (13.2)	2 (2.2)	20 (22.0)	-	27 (20.3)	7 (5.3)	12 (9.0)	17 (12.8)	3 (2.3)	21 (15.8)	2 (1.5)	10 (7.5)	5 (3.8)	28 (21.1)	1 (0.8)	9 (14.1)	4 (6.2)	11 (17.2)	11 (17.2)	-	9 (14.1)	2 (3.1)	4 (6.2)	14 (21.9)	-	
		第1~10	21 (16.9)	2 (1.6)	13 (10.5)	19 (15.3)	6 (4.8)	18 (14.5)	3 (2.4)	15 (12.1)	1 (1.6)	25 (20.2)	-	28 (17.6)	8 (5.0)	20 (12.6)	20 (12.6)	3 (1.9)	25 (15.7)	4 (2.5)	12 (7.5)	5 (3.1)	33 (20.8)	1 (0.6)	11 (12.4)	6 (6.7)	14 (15.7)	15 (16.9)	1 (1.1)	12 (13.5)	2 (2.2)	6 (6.7)	22 (24.7)	-	
不明	第1	1 (20.0)	-	-	-	-	-	-	3 (60.0)	-	1 (20.0)	-	1 (50.0)	-	1 (50.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第1~4	2 (11.1)	-	4 (22.2)	3 (16.7)	1 (5.6)	1 (5.6)	-	4 (22.2)	-	3 (16.7)	-	1 (12.5)	-	1 (12.5)	3 (37.5)	-	1 (12.5)	-	-	-	2 (25.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
	第1~10	2 (9.1)	-	4 (18.2)	3 (13.6)	2 (9.1)	2 (9.1)	-	5 (22.7)	-	4 (18.2)	-	1 (10.0)	-	1 (10.0)	3 (30.0)	-	2 (20.0)	-	-	-	3 (30.0)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
世帯年収(万円)	100	第1	-	-	-	2 (33.3)	-	-	-	2 (33.3)	-	1 (16.7)	1 (16.7)	2 (28.6)	1 (14.3)	-	-	-	-	-	-	1 (14.3)	-	2 (28.6)	1 (14.3)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
		第1~4	3 (15.0)	1 (5.0)	3 (15.0)	3 (15.0)	-	-	3 (15.0)	4 (20.0)	-	2 (10.0)	1 (5.0)	4 (15.4)	4 (15.4)	5 (19.2)	2 (7.7)	-	2 (7.7)	-	-	-	7 (26.9)	2 (7.7)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1 (25.0)	
		第1~10	3 (14.3)	1 (4.8)	3 (14.3)	3 (14.3)	-	1 (4.8)	3 (14.3)	4 (19.0)	-	2 (9.5)	1 (4.8)	4 (14.3)	4 (14.3)	5 (17.9)	2 (7.1)	-	2 (7.1)	-	-	-	9 (32.1)	2 (7.1)	-	-	1 (11.1)	5 (55.6)	-	-	-	-	-	3 (33.3)	
	200	第1	3 (42.9)	1 (14.3)	-	-	-	-	-	3 (42.9)	-	-	-	4 (57.1)	-	1 (14.3)	-	-	-	-	-	1 (14.3)	-	1 (14.3)	-	-	-	2 (100.0)	-	-	-	-	-	-	-
		第1~4	5 (19.2)	3 (11.5)	2 (7.7)	3 (11.5)	-	4 (15.4)	-	9 (34.6)	-	-	-	8 (28.6)	1 (3.6)	2 (7.1)	2 (7.1)	-	4 (14.3)	-	4 (14.3)	2 (7.1)	5 (17.9)	-	2 (25.0)	1 (12.5)	3 (37.5)	1 (12.5)	-	-	-	-	-	1 (12.5)	
		第1~10	5 (16.7)	3 (10.0)	2 (6.7)	5 (16.7)	-	4 (13.3)	1 (3.3)	10 (33.3)	-	-	-	8 (24.2)	2 (6.1)	4 (12.1)	2 (6.1)	-	5 (15.2)	-	4 (12.1)	2 (6.1)	6 (18.2)	-	2 (22.2)	1 (11.1)	3 (33.3)	1 (11.1)	-	1 (11.1)	-	-	-	1 (11.1)	
	400	第1	2 (13.3)	-	-	3 (20.0)	1 (6.7)	2 (13.3)	-	2 (13.3)	-	5 (33.3)	-	3 (23.1)	1 (7.7)	3 (23.1)	2 (15.4)	-	2 (15.4)	-	1 (7.7)	-	1 (7.7)	-	-	1 (50.0)	1 (50.0)	-	-	-	-	-	-	-	
		第1~4	9 (16.1)	3 (5.4)	5 (8.9)	9 (16.1)	5 (8.9)	5 (8.9)	3 (3.6)	5 (5.4)	-	15 (26.8)	-	10 (21.7)	2 (4.3)	8 (8.7)	6 (13.0)	1 (2.2)	8 (17.4)	-	4 (8.7)	1 (2.2)	10 (21.7)	-	-	2 (25.0)	2 (25.0)	-	-	-	-	-	-	4 (50.0)	
		第1~10	12 (14.6)	4 (4.9)	7 (8.5)	13 (15.9)	7 (8.5)	11 (13.4)	2 (2.4)	5 (6.1)	-	21 (25.6)	-	10 (17.9)	2 (3.6)	4 (7.1)	7 (12.5)	1 (1.8)	11 (19.6)	2 (3.6)	6 (10.7)	1 (1.8)	12 (21.4)	-	-	3 (23.1)	3 (23.1)	1 (7.7)	-	-	-	-	-	6 (46.2)	
	600	第1	4 (36.4)	1 (4.1)	1 (9.1)	2 (18.2)	1 (9.1)	-	-	1 (9.1)	-	1 (9.1)	-	-	-	1 (10.0)	1 (10.0)	-	1 (10.0)	-	3 (30.0)	1 (10.0)	3 (30.0)	-	2 (50.0)	-	-	1 (25.0)	-	-	-	1 (25.0)	-	-	
		第1~4	10 (25.0)	4 (10.0)	3 (7.5)	5 (12.5)	2 (5.0)	5 (12.5)	1 (2.5)	3 (7.5)	-	7 (17.5)	-	2 (5.4)	1 (2.7)	5 (13.5)	5 (13.5)	1 (2.7)	9 (24.3)	3 (8.1)	3 (8.1)	1 (2.7)	7 (18.9)	-	4 (25.0)	-	1 (6.2)	3 (18.8)	-	6 (37.5)	-	1 (6.2)	1 (6.2)		
		第1~10	13 (26.5)	4 (8.2)	3 (6.1)	6 (12.2)	4 (8.2)	6 (12.2)	1 (2.0)	5 (10.2)	-	7 (14.3)	-	2 (4.9)	1 (2.4)	5 (12.2)	8 (19.5)	1 (2.4)	10 (24.4)	3 (7.3)	3 (7.3)	1 (2.4)	7 (17.1)	-	5 (22.7)	-	1 (4.5)	3 (13.6)	-	-	1 (4.5)	-	5 (22.7)		

6 結論と展望

今回の予備調査において明らかになったのは、「経済」についての連想が、意識の中の経済として体系的に理解できるということである。また、連想語詞がニュース原稿の使用語詞の範囲と、ほぼ一致しているという事実もその枠組を提供し、また教育するメディアの機能を示唆しているようにも思われる。しかし、この間の直接的関連はこの段階ではなお暗示的であるにとどまる。また連想についての予備的な数量分析の結果は、個々人の属性と連想内容との関連を示唆している。これら提起された問題の確認と実証が、本年度実施を予定されている個別面接法による統計的標本調査の課題となろう。

注

- (1) “Assoziation” Wörterbuch Der Philosophische Begriff (Rudolf Eisler編, E.S.MITTLER und SOHN 1927)、また心理学については矢田部達郎「連想研究」『思考心理学史』(培風館 1948.4.10)
- (2) 「記憶と想起について」『アリストテレス全集6』(岩波書店 1968.10.11)232~233頁。ちなみに、前掲『全集』の詳細な索引を見るかぎり、「連想法」という用語が出てくるのは「自然学小論集」のこの1箇所だけである。他は暗示的であるということになる。
- (3) John Locke, An Essay Concerning Human Understanding, Book II Chp, 33. David Hume, A Treatise of Human Nature, Book I, Part I sect IV
- (4) ユング「レクチュアII」『分析心理学』(みすず書房 1976.2.28)82頁
- (5) ユング『連想実験』(みすず書房 1993.2.2)
- (6) F. ヨドレ「語詞連合」J. ピアツェ、P. フレス編『現代心理学Ⅷ』(白水社 1971.8.10)
- (7) CHARLES N. COFER (1958) “Comparison of Word Associations Obtained by The Methods of Discrete Single Word and Continued Association” Psychological Reports:507-510 また、LAFFAL, J and S. FELDMAN (1962) “The Structure of Single Word and Continuous Word Associations” J. of Verbal Learning AND Verbal Behavior:54-61, あるいは、BERTRAM E. GARSKOF (1965) “Relation Between Single Word Association and Continued Association Response Hierarchies” Psychological Reports:307-309 など。
- (8) DUNN, S., J, BLISS, and E. SIPOLA (1958) “Effects of impulsivity, introversion, and individual value upon association under free conditions” J. of Personality 26:61-76
- (9) M.R.ROSENZWEIG (1961) “Comparisons Among Word-Association Responses in English, French, German, and Italian” The American J. of Psychology 74:347-360
- (10) TANAKA-MATSUMI, J., and J. A. J. MARSELLA (1976) “Cross-cultural Variation in the Phenomenological Experience of Depression I. Word Association Studies” J. of Cross-cultural Psychology 7:379-396、これには、木村敏による詳細な紹介がある。「比較文化精神医学序説」『自己・あいだ・時間』(弘文堂 1981.10.5)
- (11) A. EKPO-UFOT (1978) “Word Associations, a comparative study among college students in Nigeria and the United States” J. of Cross-cultural Psychology 9:455-468
- (12) 本調査では、文字によって、ただ一つだけの刺激語が呈示され、被験者はそれによって喚起される語を4~10語、記述するように求められる。自由連続連想法にも、多少の変異があるが、その詳細についてはF. ヨドレ「語詞連合」、J. ピアツェ、P. フレス編『現代心理学Ⅷ』145頁。
- (13) 国家を機能集団 (Association) の一つ、ただし他のアソシエーションを統制することを特性にもつアソ

シェーションであるとする、マッキーバーに依拠して、他の機能集団と独立させて扱うこととした。R. M. MacIver, COMMUNITY, Book 1; Chap, 2

- (14) 例えば、ミッシェル・フーコーのいう、言表 (énoncé) と言説 (discours) との関係を想起されたい。M. Foucault, L'archéologie du savoir, Gallimard 1969.

Summary

In the present paper the author used free association method to investigate the latent meaning, or the representation of the word *economy*.

A content analysis of the respondent's responses (N=160) led to the following general results:

- 1) The term *economy* is represented as a relatively clearly defined gestalt, *structure*.
- 2) The associations made by the respondents were very similar to those used in news programs (NHK News Programs).

As a result of a quantitative analysis, the respondent's associations can be classified into two different categories, namely, "the experiential aspects of economy", and "the analytical aspects of economy". The largest number of respondents displayed a tendency characterized by the "experiential view" of economy, and the rest were more analytical in their approach to economy. Moreover, it was found that such demographical factors as sex, education level, and occupation, played in some aspects some role in the respondent's free associations, however, the data are not enough to draw clear conclusions about the effects of these factors.

[付 記]

本稿は、文部省科学研究費助成、平成7年度総合研究(A) (前田穰代表「経済意識と経済の社会的評価に関する理論的実証的研究」) により成ったものである。研究会メンバー、とりわけ木下博道氏には、集計に関して多大なご助力を賜った。ここに記して謝意を表したい。